

令和元年度第2回始良市地域公共交通会議 議事録

記録者	馬場 真の輔
-----	--------

日 時	令和元年8月22日(木)	時 間	午前 10 時00分～午前 11 時00分
場 所	始良市役所 本館2階 大会議室		
出席者	委員 湯元委員、末吉委員、齊協委員【代理出席】、華江委員、上川委員、加治木委員【代理出席】、佐藤委員【代理出席】、福永委員、山口委員【代理出席】、山口委員、岡委員、竹田委員、若月委員、諏訪協委員、竹下委員、柳鶴委員、鮫島委員【代理出席】、徳部委員 事務局 地域政策課、社会福祉課、加治木地域振興課、蒲生地域振興課		
議 長	会長 湯元 敏浩(始良市長)		
資 料	事前配布資料 当日配布資料1(加治木地区循環バス路線図・時刻表) 当日配布資料2(高井田停留所での転回場所)		
傍聴者	なし		

会議内容

(会次第)

1 開会

2 委嘱状交付

人事異動に伴う委員の委嘱状を交付。

3 会長あいさつ

4 議事

【協議事項】

(1) 永原校区・竜門校区・中野地区予約型乗合タクシー試験運行に伴う加治木地区循環バス(循環線)の運行計画の変更について

事務局より、事前配布資料(資料1)、当日配布資料1及び当日配布資料2に沿って説明し、承認を求めた。

⇒質疑なし。承認。

(2) 加治木地区循環バスの日曜・祝日運行の取り止めについて

事務局より、事前配布資料(資料2)に沿って説明し、承認を求めた。

委員 加治木地区循環バスの日・祝日の利用者数の実態や運転手不足といった問題があるので、事務局の提案のとおり日・祝日の運行を取り止めたいと考えている。

運行事業者としても、再雇用の拡充等で運転手の確保に努めているが、歯止めがきかない。また、複数市町を跨いで運行している幹線系統についても減便や日・祝日運行の取り止め等を行うことで運行の継続を図っている。コミュニティバスのような地域内フィーダー系統についても幹線系統同様に効率的な運行としていきたい。

委員 始良市内の他のコミュニティバスの日・祝日の利用状況はどうなっているか。

事務局 日・祝日も運行しているコミュニティバスは加治木地区循環バスのみとなっている。

委員 加治木地区循環バスの各路線の利用者数は把握しているのか。

事務局 平成30年度実績は、中野線が平日0.32人/便 日祝0.38人/便、長谷線が平日0.28人/便 日祝0.14人/便、嶽線(菖蒲谷経由)が平日1.52人/便 日祝1.52人/便、嶽線(辺川経由)が平日3.40人/便 日祝1.88人/便、市来原・迫線が平日1.26人/便 日祝0.65人/便、循環線が平日1.40人/便 日祝0.88人/便となっている。

委員 1便当たりの利用者が3人を超えるなど、利用者数が多いと感じる路線もある。日・祝日の運行を取り止めるのではなく、減便のような形で対応することはできないのか。

会長 1便あたりの利用者が3人を超えているのは平日のみとなっている。運行事業者である鹿児島交通は減便案についてはどう考えるか。

委員 利用者のことを考えれば、取り止めではなく減便での対応がよいと考える。しかし、運行事業者として利用状況を考えると、バスでの運行自体に疑問を感じており、今回試験運行を行う予約型乗合タクシーの方が適していると考えます。また、運転手の確保が難しく、今後も日・祝日の運行を確保することができないため、減便ではなく、運行自体を取り止めたい。

委員 先ほどから出ている運転手不足は雇用する運行事業者の問題であり、公共交通会議に議事としてあがること自体が筋違いではないのか？

会長 公共交通会議は、事業者が抱える問題も含めて公共交通について考える場であるため、筋違いということはない。事務局は減便案についてはどう考えるか。

事務局 加治木地区循環バスの日・祝日運行の取り止めについては、2年ほど前から運行事業者である鹿児島交通から相談があった。鹿児島交通の自助努力により、これまでは運行できているというのが現状である。利用実態や運転手の労働環境等を考えると日・祝日の運行を取り止めざるを得ないと思う。

⇒承認。

5 その他

特になし

6 閉会